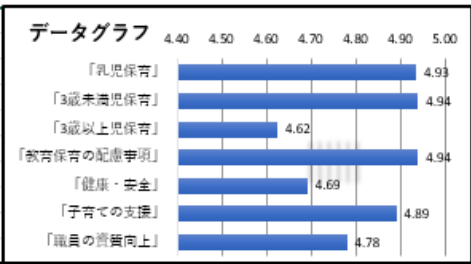


自己評価（前年度）

※「幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価」のチェック項目を用いて自己評価しています

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価			
データ 分析 表	データ表		データグラフ
	内容	項目数	平均
	「乳児保育」	15	4.93
	「3歳未満児保育」	32	4.94
	「3歳以上児保育」	53	4.62
	「教育保育の配慮事項」	16	4.94
	「健康・安全」	29	4.69
	「子育ての支援」	18	4.89
	「職員の資質向上」	9	4.78
	計	172	4.78
			
総合 評価	新型コロナウイルス感染症が感染症法上で5類に位置付けられたこともあり、改めて、“多様な人との関わり”を意識しながら、教育・保育を進めてきた。ボランティアの方々や、就労支援やデイの利用者の方々、保護者の皆様にも様々な面で教育・保育に参画いただき、気持ちを受け止めてもらったり、成長を喜んでいただいたりし、自信を培っていくこどもたちの様子が印象的であった。保育者一人ひとりの自己評価や、園としての自己評価において振り返り、課題として浮かんできたことの一つひとつを丁寧に受け止め、よりよい環境づくりを目指していきたい。		

事業計画（今年度の重点目標）

項 目	内 容
こども・子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	〔自己決定と選択の尊重〕 子どもや高齢者・障害者にとって選択できる環境や選択肢が提示されるなど、「自己決定」が尊重される仕組みや環境づくりの実践及び検証・報告 日々の振り返りを大切にし、エリアやアトリエにて問いのある環境を常に整え、より質の高い自己決定を保障していく（園全体の環境会議年12回）
保護者との「信頼」の構築	〔保護者、地域への説明〕 法人が提供する保育・介護・障害福祉サービス内容について、保護者や地域住民等に対して説明する機会を設ける 子どもと利用者が主体となり地域に向けての展示会準備を実施できるよう支えていく（森のおうちを利用した地域への見える化として展示会等/年1回）
地域の学校との「信頼」の構築	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園（施設）行事・自己評価事業への招待等、“顔と顔の見える関係（世間話ができる関係）づくり”に努め、相互理解を図る 交流や研修の計画、実施を通して相互理解を図ることができるようにしていく（計画、交流・研修を合わせて年3回実施）